

ティーチングポートフォリオ

佐賀女子短期大学 こども未来学科 尾崎加奈

1. 教育の責任

この科目は、コースの「介護福祉士に必要な幅広い専門知識と、個別性を理解した根拠のある生活支援技術を身に付けている人」という学習成果と関連している。

学習成果の評価項目としては、⑧「介護実践の根拠となる知識・技術が理解できる」の部分と特に関連している。

2. 教育の実施における理念

介護福祉士の資格誕生から今日にいたるまでのあいだも社会は絶えず変化を続けており、求められる役割と期待はますます大きくなっている。その背景のもと、今後さらに複雑化・多様化・高度化していく介護ニーズに対応できる介護福祉士を育成する。この科目では、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠にもとづいた介護実践を行うための知識・技術を学習する。

「自立に向けた家事の介護」では、調理、洗濯、裁縫などの具体的な家事支援における介護技術を学ぶ。

3. 教育の方法

展開時期は1年次前期である。

多くの受講者が留学生であり、入国したてで日本文化に不慣れな学生も多いと考えられる。

日本での生活や資格取得の学びの観点からも早期に日本での習慣や考え方を知っておく必要があると認識している。

この授業の内容は以下である。

- ① 生活を理解する
- ② 居住環境の整備
- ③ 家事の支援の理解

4. 教育の成果

評価点平均は、81であった。

評価結果(%)

S	A	B	C
8	59	28	5

この授業の到達目標を充分達成した学生は22%、まあまあ達成した学生は41%であった。

この授業の総合評価(5段階評価)では、4が最も多く38%、次いで5が28%であった。また、評価のうち、説明の仕方、理解の確認、将来役に立つか、体系的に整理されている、評価方法や基準などについておおむね高い評価がみられた。

5. 目標

留学生がほとんどのクラスは初めての経験であったので、配慮が足りない部分が多くあったように感じる。

今後は、学生自身が課題や授業内容に積極的に取り組めるように、興味を持たせるような工夫をさらに実施する必要があると考えられる。様々な点で、理解度を確認するための機会を効果的に設けたい。